



神奈川県における「心のサポーター養成事業」の 実施状況等について

令和5年11月8日

神奈川県健康医療局 保健医療部 がん・疾病対策課

目次

- 1 実施状況
- 2 工夫した点
- 3 企業連携による実施
- 4 県独自のアンケート
- 5 課題
- 6 令和5年度の取組

1 実施状況

- 国のモデル事業として令和3年度及び4年度に実施
- 実績

	研修回数	養成人数	備考
令和3年度	10回	675人	
令和4年度	13回	534人	職域実施分含む（3回 268人）
合計	23回	1,209人	



研修状況(講義)



研修状況(ペアワーク)

2 工夫した点

(1) 市町村との協力

- 会場確保、広報、当日の運営において**市町村が協力**
⇒ 安価で便利な会場確保、多数の受講希望者、当日の円滑な運営につながった。
- 特に**政令市（横浜、川崎、相模原）は主体的に研修運営**
⇒ 政令市も研修実施のノウハウを取得。

(2) 企業との連携による職域での養成

- 県と保健医療に係る連携協定を締結した**企業と連携し、職域でも研修実施**
⇒ 行政の負担は最小限で多くのサポーターを養成（268人）。

2 工夫した点

(3) 本県独自アンケートの実施

- 国によるアンケートがない回において、**県独自のアンケート**を実施
⇒ 本格実施に向け、効果的な周知や開催方法の参考にする。
- 承諾いただいた方には、サポーターとしての活動状況等を聞くため、**半年後にアンケート**を再度実施。
⇒ 受講者の活動状況等をサポーターや養成研修の周知に生かしていく。

3 企業連携による実施

(1) 実施概要

武田薬品工業（株）と連携し、オンライン研修を3回実施した。268人が参加。

1回目：全国の武田薬品社員（精神領域担当のMR等）の希望者

2回目：武田薬品の特約店（医薬品卸）の希望者

3回目：神奈川県薬剤師会会員の希望者

(2) 連携企業からの意見・要望

- ・ 国の目標を達成するには、職域連携を継続するべきではないか。
- ・ この職域モデルを全国にも広げていきたい
- ・ 当研修のフォローアップもあるとよい
- ・ 職域モデルを実施した企業として、感想や医療関係者との連携等について、国の御担当者とぜひお話をしたい。

4 県独自のアンケート

(1) 設問

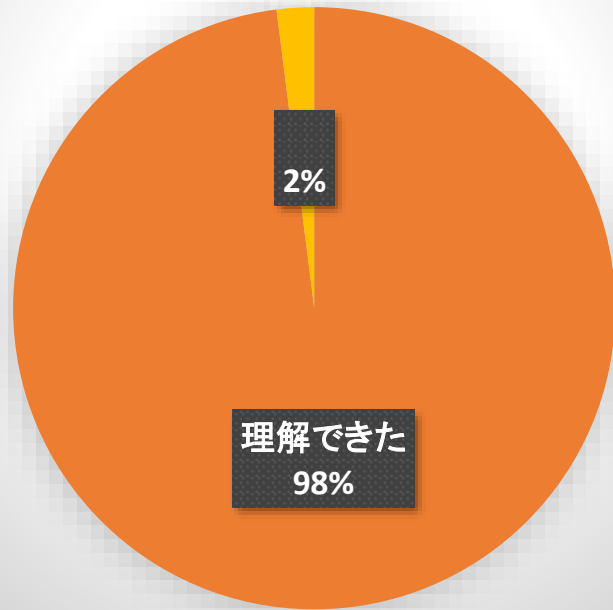
- ① 研修を知った経路
- ② 実施方法の希望（対面 or オンライン）
- ③ 研修実施時間帯の希望
- ④ ゲートキーパー研修の受講有無
- ⑤ 研修内容の理解度
- ⑥ サポーターとしての活動意向
- ⑦ 周囲の方への受講勧奨の意向
- ⑧ 受講動機（自由記載）
- ⑨ 研修への意見・要望（自由記載）

4 県独自のアンケート

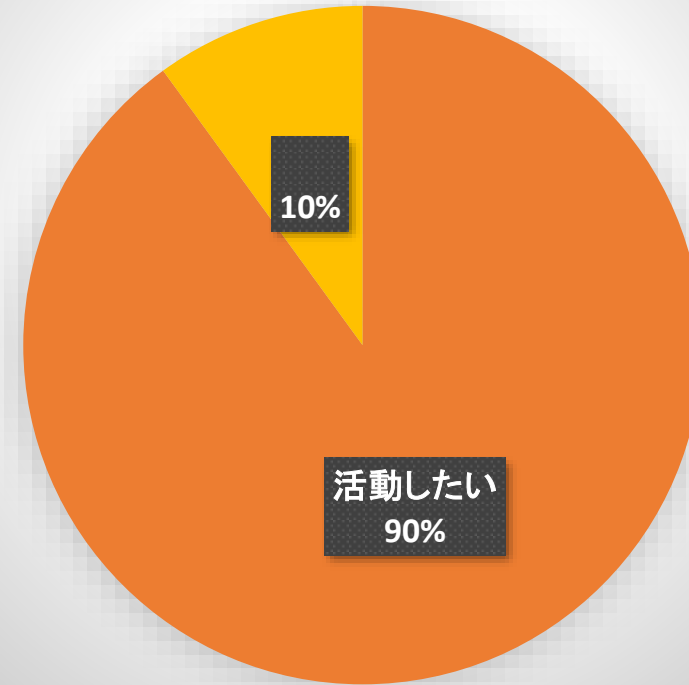
(2) アンケート結果 (主なもの)

n = 216

メンタルヘルスや心の病気、身近な人への接し方について理解できたか



今後、こころサポーターとして活動していきたいか



4 県独自のアンケート

<受講動機>

- ・ 身内が精神疾患で、サポートできるようになりたいと思った。
- ・ 周囲に悩んでいる方がいて、少しでも役に立ちたいと思った。
- ・ 家族や身近な人との関係改善やメンタルヘルスを理解したかった。
- ・ こころの病気になり、その時に周囲の理解があるとよいと感じた。
- ・ 精神障害で相手と上手く話せないと感じることが多く、改善したかった

4 県独自のアンケート

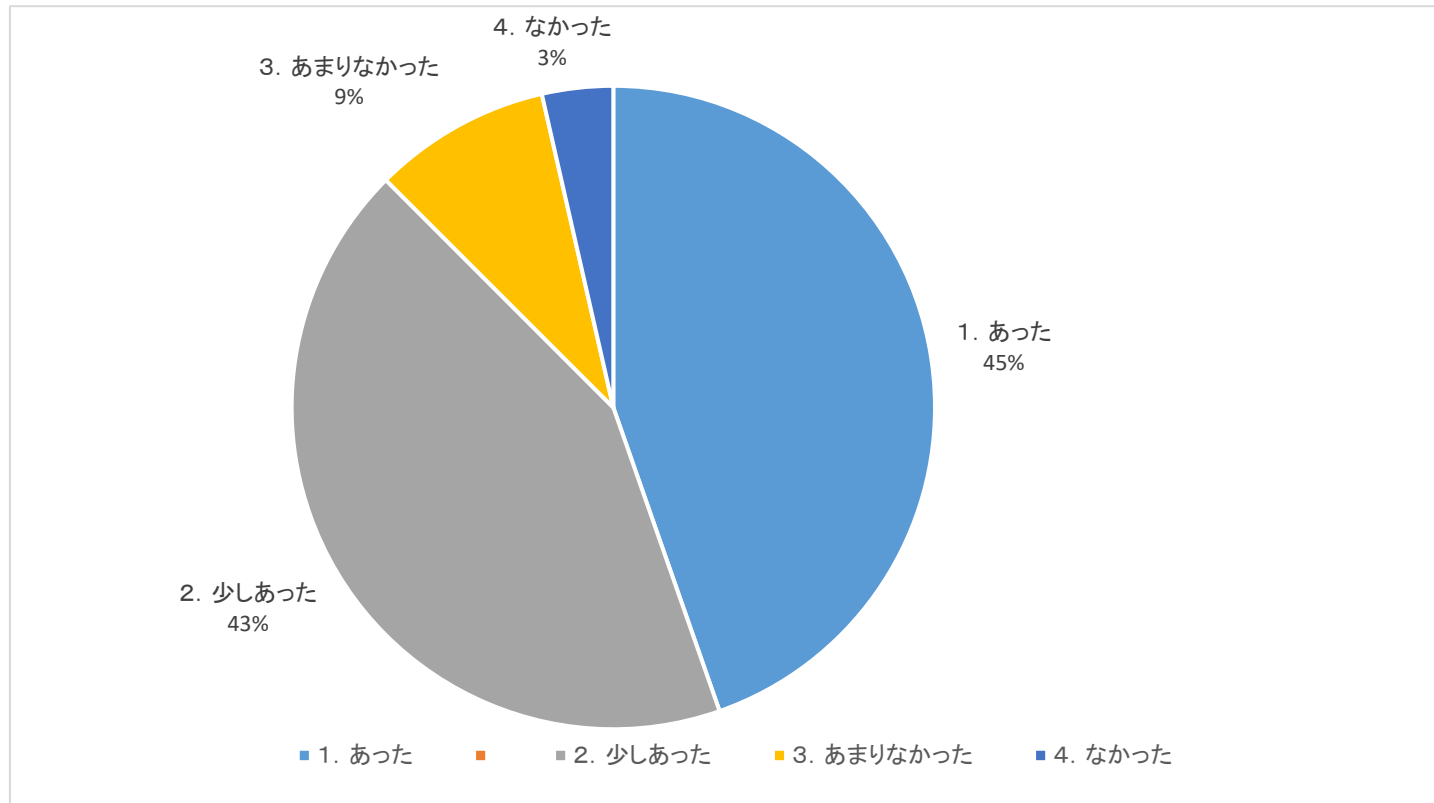
<意見や要望>

- ・ 講師の話し方や進行がとても分かりやすかった。
- ・ 声の掛け方について、もう少し詳しく学びたかった
- ・ 発達障害の子供に対してどう接した方がいいのか見えてきた気がした。
- ・ 個人により症状も様々で、サポートする側も対応の仕方が難しいと感じた。
- ・ 次のステップにつながる研修があったら受講したい。
- ・ 学んだ内容を無理せずできるところから始めたい。
- ・ 多くの人がこのような研修を受けて優しい社会になってほしい。

4 県独自のアンケート

(3) 半年後アンケート結果 (主なもの) n = 56

Q 研修受講後、生活の中で御自身の気持ちや考え方に変化はあったか。

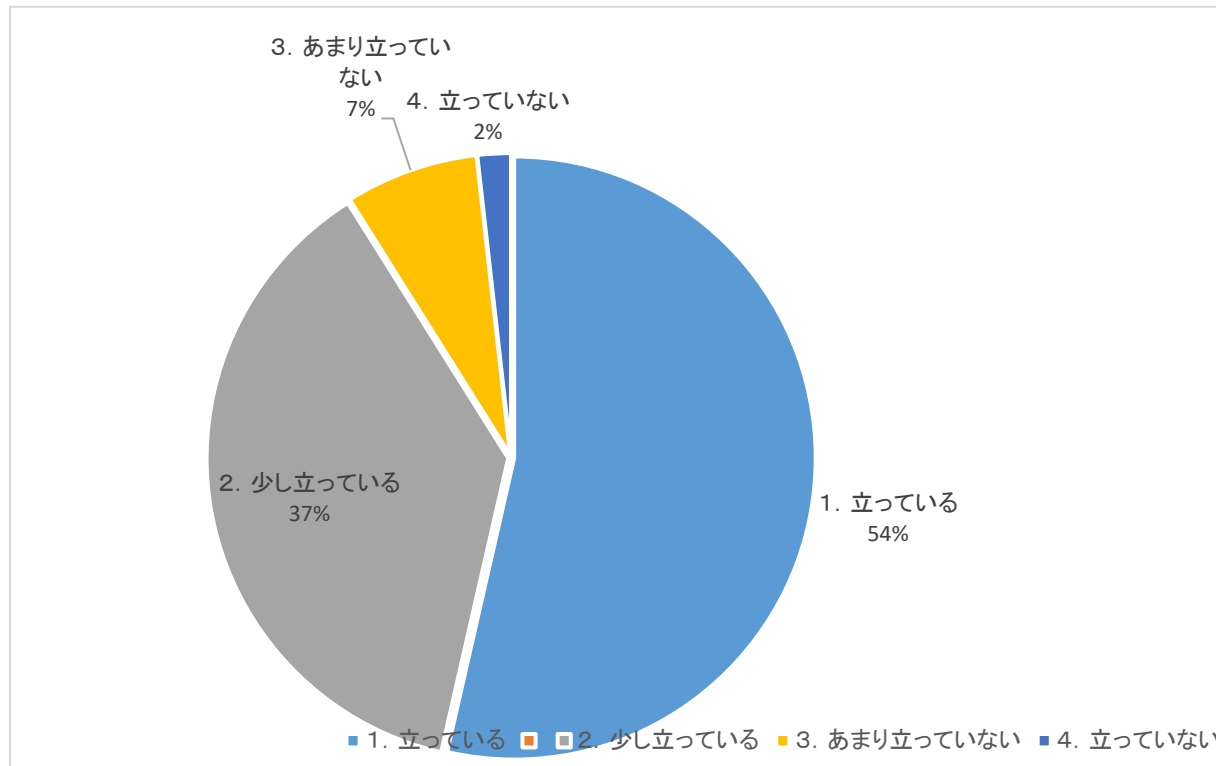


88%が変化ありと回答

4 県独自のアンケート

(3) 半年後アンケート結果 (主なもの) n = 56

Q 研修で学んだ内容は役に立っているか。



91%が役に立っていると回答

5 課題

(1) サポーターの増加（研修回数の増加）

- ・ 地域（市町村）や職域の活用。
- ・ 受講しやすい多様な実施方法（オンライン、映像配信など）の導入。
- ・ 研修講師となる指導者のさらなる養成・確保。
- ・ 地域の実情に即した事業実施。（政令市との協調、県の面積）
- ・ 心のサポーターの認知度や関心を高めることの必要性。

(2) ゲートキーパーとの棲み分け

- ・ 自殺対策におけるゲートキーパー養成と重なる部分もあり、整理が必要。

(3) 費用負担

- ・ 本格実施に向けては、十分な予算措置が必要。

6 令和5年度の取組

○ 実績（集計中）

	研修回数	養成人数	備考
令和3年度	10回	675人	
令和4年度	13回	534人	職域実施分含む（3回 268人）
令和5年度	13回	797人	職域実施分含む（3回 246人）
合計	36回	2,006人	

○ 工夫した点

- ・ 各会場の定員数の増（昨年度の2倍以上）
- ・ ゲートキーパー養成研修を同日実施
- ・ 職域連携の幅を広げた（新規企業や大学との連携）

6 令和5年度の取組

○ 職域連携の幅を広げた具体例

- ・ 大学と連携して学生向けに授業の一環で実施
- ・ 昨年度とは別の企業の社員向けにオンラインで実施
- ・ 神奈川県医師会と連携し高等学校の学校医等向けにオンラインで実施

⇒**職域連携等により、246人のサポーターを養成**

県全体の養成者数の約3割を占めている。

- 当該事業やメンタルヘルスの理解促進に関しては、県議会の関心も高い
- 令和4年度は自民、立民、公明の各会派議員が本会議で質問
- 質問及び要望
 - ・ 「心のサポーター養成事業」は、地域で安心して暮らすための基盤づくりとして有効であるため、県としてもしっかりと進めていくべき。
 - ・ 申込者が定員のため受講できない事例があるが、そうしたことがないように仕組づくりを考えるとともに国へも要望してもらいたい。
- 知事の答弁内容
 - ・ 養成事業を引き続き実施していく。
 - ・ 国では、100万人養成という目標を掲げているので、国に対して、本県での工夫を提示しながら、より多くのサポーターを養成できる研修手法の開発を求めていく。
 - ・ モデル事業の継続を国に働き掛けていく。

○ 今後の取組

心のサポーターは、誰もが安心して暮らせる社会づくりにも資することから、県は、来年度以降も引き続き、サポーターの養成を進める。

3年間のモデル事業の中で工夫してきた手法をさらに進め、より多くの県民に心のサポーターになっていただけるよう、今後も積極的に取組を進めていく。

御清聴ありがとうございました